

ジャーナリズム分野1年の井手公正と申します。

福岡で遠隔受講しております。

ご講義がおわるころ、「佐賀県出身です。」と申させていただいた者です。

千葉県の病院で作業療法士として勤務しておりました約1年8ヶ月前、停車中にトラックがノンブレーキで追突してきて脊髄損傷し、車椅子生活になり、地元の九州に帰ってきて現在は大学院で社会復帰に向けて勉強させて頂いているところです。

志村ご夫妻のお話が聴けて、大変感激いたしました。

約17年間、血がにじむような努力や誠心誠意で「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」を守り続けてこられたことが、ひしひしと伝わってきました。

何かのご縁なのでしょうか、「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」が誕生した年に私は生まれ、私の出身地である佐賀県にも「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」が広まっていることを知り、大変嬉しく思いました。

もし、車椅子でも参加可能でしたら、是非参加させていただきたいと思っております。

頂きましたレジュメや文章は、27歳の車椅子利用者であります私なりに同感することばかりです。視覚障害者と車椅子利用者の世界をシンクロさせたり、イメージを膨らませたりしながら楽しく受講させていただきました。

25歳で胸から下の感覚を失った僕だから「こそ」、ハンディキャップを抱えた人だから「こそ」見える世界や感じるものもあり、それをシェアし合えると皆が新たな発見が出来、想像力や感性が磨かれることでしょう。

「視覚がなければ誰もが偏見なく平等でいられる」という創設者の発言や、「暗闇は人を元に戻すメディアである」という表現、大切にさせていただきます。

若いうちに気づいていれば。。。」という志村さんの深い言葉にも出会うことができ、胸が高鳴りました。

何かを失うとそこに福が舞い込んでくるものだと実感する日々でございます。

先天的に元々何かがない方には、元々ある方にはないものが元々あったりするのだと思います。私は、身体感覚を失ったことで顔と両腕の感覚が以前より研ぎ澄まされたように感じておりますし、6月30日は、ゆき先生のお陰で「志村ご夫妻の話を心底楽しみながら聴くことができた」という福が舞い込んできました。心より、感謝申し上げます。

このたびは大変「優しく心温まる、そして深みのある」ご講義を有難うございました。